

## 育英小学校 5年生 稲作体験学習 田植え 実施報告

1・2年生の自然教室に先立ち、6月11日の午前9時半から10時半まで、育英小学校にて同校5年生児童18名を対象に、稲作実習として、田植えの体験学習を実施しました。

これまで担当された方がご高齢のため代わりに今年自然教室チームに依頼があり、お受けしました。田植え指導は鈴木会長にお願いし、自然教室から3名がお手伝いしました。



【よろしくお願ひします】

【田植え実習】

同校からは、田植え以降の草引き、収穫時の刈取り、脱穀などの作業支援の依頼も受けています。

田んぼは校庭にある3.2m角の花壇を使用。そこにミニチュアの田んぼが作られ、児童全員が裸足で田んぼに入り、各自4か所ほどにそれぞれ3本の苗を植える稲作を体験してもらいました。

鈴木会長からは、田植えの方法のみならず、日本の稲作の歴史、米の種類についての話もしていただき、子供たちも真剣に耳を傾けてくれました。



稲作体験を通じ、子供たちが今まで以上にお米を身近なものに感じてくれればと切に願います。

## 子供に還る

岡田 安弘

旺盛な知識欲と言えれば笑われるかもしれないが、池の底から吹き出る地下水のごとく、今の私は、植物を知りたい知りたいという意欲が湧いてくるのです。

裏返せば、これまで自然についていかに無関心だったかということだ。

6月6日、奈良・人と自然の会が佐保台小学校で開いた放課後自然教室に見学のつもりで参加した。ところが指導スタッフのひとりとして紹介され、冒頭から冷や汗。仲間の手まね、口まねでやり過ごす。生徒のひとりが、もたもたしている私を見て「難しいのか？」と不思議そうに聞く。「うん、眼鏡忘れたんや」と応える。自然教室は私を子供に還してくれた。一息ついた瞬間だ。

運び込んだ数えきれないほどの数珠玉。直径1cmに満たない玉に、あらかじめドリルで穴が通してある。仲間の苦勞に頭がさがる。

数珠玉と色違いのビーズを交互に極細のゴム糸に通す。12~3個ずつ通すとブレスレットの出来上がり。器用な子は「お母さん用も」と二作目に挑む。瞳が輝いている。

竹笹の節に目玉を貼り付けてカエルの顔のストラップができる。10円玉をカタバミ草で磨くと、あら不思議ピカピカに光る。楕円形のオナモミはトゲだらけ。これでダーツ遊びを仲間のベテランが思いついた。竹笹の節を除いて初めて見た植物ばかり。名前も初耳だ。いずれも「ならやま」の自生植物と知る。

翌日が会の活動日。早速、数珠球草の自生地を教えてもらおう。苗を4本もらい、近所に借りている畑に植えた。

日ごろ口にする物と、よく見る花の名以外を私は知らない。それに気がついたのが、会に参加した昨年10月のことだ。赤い小玉が鈴なりのハナナスに出会い、枯れた千日紅を摘みながら「ドライフラワーにするのよ」と教えてくれた仲間に出会えた。その時に知った名前だ。

以来、必ず名前をメモにし、帰宅して辞書を引く。持ち帰れる植物は畑に植える。一子相伝の甚五右エ門芋を植えたのが始まり。今や「ならやま芋」と呼ぶそうだ。コンニャク芋も植えた。茎と葉が顔を出している。先日の活動日、収穫に4~5年かかると聞いて驚く。「それまで生きていかなあ」と口走り笑われた。ならやまは私に生気を吹き込んでくれている。